アウクスブルク市滞在記

山本希海

1 日目：プレラー訪問とボランティア消防団訪問

アウクスブルクに到着して最初の日は、プレラーを訪問し、ボランティア消防団の活動を見学しました。

ボランティア消防団では、実際に出動する場面を見せていただきました。消防団の方々が素早く準備をして出動する姿はとても迫力があり、実際の活動を間近で見ることができて、とてもかっこいいと感じました。日本とは異なる消防団の活動について知る貴重な機会にもなりました。

2 日目：ディーゼルハインとフッガーライ

特に印象に残ったのはフッガーライです。世界最古の社会住宅街の一つであることは事前に知っていましたが、現在も実際に人が暮らしていることを知り、とても驚きました。歴史的な場所として保存されているだけではなく、今も人々の生活の場として使われていることに、長い歴史が現在の暮らしにつながっていることを感じました。

3 日目：表敬訪問と伝統文化体験

伝統衣装体験では、伝統衣装が時代によって少しずつデザインや特徴が異なることを知り、とても面白かったです。また、衣装にはさまざまな柄があり、とても可愛らしく、見た目の楽しさも印象に残りました。伝統衣装を身につけることで、当時の人々の暮らしや文化をより身近に感じることができました。

4 日目：ノイシュヴァンシュタイン城とヴィース教会

ノイシュヴァンシュタイン城の内部ではガイドの説明を聞きながら見学し、建物の美しさだけでなく、城が建てられた背景や歴史についても知ることができました。事前に写真などで見ていたときとは違い、実際にその場所に立って説明を聞くことで、より深く歴史を感じることができました。

5 日目：WWK アリーナ、ダッハウ強制収容所、BMW 博物館

ダッハウ強制収容所では、現在の明るく楽しいドイツの姿だけではなく、その背景にある暗い歴史についてもリアルに知ることができました。実際にその場所を訪れ、当時の状況について説明を聞くことで、教科書や映像だけでは感じることのできない重みを感じました。視察や観光だけではなく、その国の歴史や過去にも目を向けることの大切さを学びました。

6 日目：給水塔見学と職業訓練センター、送別会

給水塔は、日本ではあまり見たことのないような施設だったため、とても新鮮に感じました。建物の中を実際に歩いてみると、少し床が斜めになっているところもあり、長い年月を経てきた建物ならではの雰囲気を感じました。普段何気なく使っている水が、どのように管理されてきたのかを知ることができ、アウクスブルクの歴史を別の角度から学ぶことができました。

送別会では、私たちからクイズや折り紙を披露しました。ホストファミリーをはじめ、現地の方々が折り紙にとても興味を持ってくれたので、いろいろなものを折ってプレゼントしました。完成した折り紙を見て喜んでくれる姿が嬉しく、言葉だけではなく、日本の文化を実際に体験してもらうことでも交流を深められるのだと感じました。

7 日目：ホストファミリーとの時間とミュンヘン

ミュンヘンでは市庁舎を訪れ、その大きさと美しさにとても感動しました。実際に目の前で見ると写真で見るよりも迫力があり、ドイツの街並みの美しさを改めて感じました。

夜には友達も誘ってプレラーへ行きました。そこには伝統衣装を着た若者がたくさんいて、日本のお祭りとはまた違った雰囲気を楽しむことができました。みんなでビールを飲みながら話したり、音楽を楽しんだりして、とても楽しい時間を過ごしました。最終日の夜ということもあり、旅が終わってしまう寂しさを感じながらも、最後までドイツの文化を楽しむことができました。

滞在を終えて

今回のアウクスブルク市への訪問では、視察や観光だけではなく、現地の人々との交流や歴史、文化、教育、生活について幅広く知ることができました。

また、ノイシュヴァンシュタイン城のような美しい観光地だけでなく、ダッハウ強制収容所のようなドイツの暗い歴史にも触れたことで、国を知るためにはその国の良い部分だけではなく、過去にも目を向けることが大切だと感じました。そして何より、ホストファミリーや現地で出会った方々が温かく接してくださったことが印象に残っています。今回の一週間で得た経験をこれからも大切にし、ドイツやアウクスブルクとのつながりを忘れず、今後も異なる文化を知ることや国際交流を大切にしていきたいです。









